

Oracle® Fabric Manager 5.0.2 インストールガイド



Part No: E74609-02
2016 年 11 月

Part No: E74609-02

Copyright © 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用了ことに起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>) か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

目次

このドキュメントの使用	7
製品ドキュメントライブラリ	7
フィードバック	7
ソフトウェアについて	9
インストールの概要	9
ソフトウェアの概要	10
サポートされるハードウェア	10
ソフトウェアのインストールまたはアップグレード	13
ホストサーバーとクライアントの要件	13
▼ インストールの準備をする	15
ソフトウェアのインストール	15
▼ ソフトウェアをインストールする (Oracle Solaris)	15
▼ ソフトウェアをインストールする (Linux RPM ファイル)	16
▼ ソフトウェアをインストールする (Windows)	17
インストールの確認とトラブルシューティング	20
▼ Oracle Fabric Manager サービスのステータスをチェックする	20
▼ Oracle Fabric Manager サービスを停止する	20
▼ Oracle Fabric Manager サービスを起動する	21
サービスログ	22
ソフトウェアのアップグレード	22
▼ ソフトウェアをアップグレードする (Oracle Solaris)	23
▼ ソフトウェアをアップグレードする (Windows または Linux)	23
ソフトウェアのアンインストール	25
▼ ソフトウェアをアンインストールする (Oracle Solaris)	25
▼ ソフトウェアをアンインストールする (Linux)	26
▼ ソフトウェアをアンインストールする (Windows)	26
Oracle Fabric Manager の証明書の構成	27
証明書の概要	27

CA 署名証明書の作成およびインストール	28
ソフトウェアの起動とログイン	34
初回ログインに必要な資格	34
認証	35
▼ Oracle Fabric Manager にログインする	36
 用語集	 37
 索引	 41

このドキュメントの使用

- **概要** – Oracle Fabric Manager 5.0.2 ソフトウェアの概要、インストール、および構成に関する情報を提供します。
- **対象読者** – システム管理者およびネットワーク管理者。
- **前提知識** – 高度なシステム、ネットワーク、およびデータセンターの管理。

製品ドキュメントライブラリ

この製品および関連製品のドキュメントとリソースは http://docs.oracle.com/cd/E64523_01 で入手可能です。

フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

ソフトウェアについて

次のトピックでは、インストールプロセスおよびサポートされているハードウェアの概要について説明します。

- [9 ページの「インストールの概要」](#)
- [10 ページの「ソフトウェアの概要」](#)
- [10 ページの「サポートされるハードウェア」](#)

関連情報

- [Oracle Fabric Manager 5.0.2 管理ガイド](#)

インストールの概要

これらは、Oracle Fabric Manager ソフトウェアをインストールおよび構成するために必要なタスクです。

手順	説明	ドキュメントまたはリンク
1.	ソフトウェアをインストールする Oracle IB スイッチまたはホストサーバーを選択します。ソフトウェアを使用するクライアントが互換性があることを確認します。	13 ページの「ホストサーバーとクライアントの要件」
2.	ソフトウェアをインストールできるようにホストを準備します。	15 ページの「インストールの準備をする」
3.	ソフトウェアをインストールします。使用するホストに適した手順を使用します。	15 ページの「ソフトウェアのインストール」
4.	インストールの成功を確認するため、ソフトウェアサービスのステータスをチェックします。	20 ページの「インストールの確認とトラブルシューティング」
5.	ソフトウェアホスト上で署名付きの証明書を構成してインストールします。	27 ページの「Oracle Fabric Manager の証明書の構成」
6.	ソフトウェアを起動してログインします。	34 ページの「ソフトウェアの起動とログイン」

関連情報

- [10 ページの「ソフトウェアの概要」](#)

ソフトウェアの概要

Oracle Fabric Manager は、Oracle ファブリックデバイス (1 つ以上の Oracle **IB** スイッチ、Oracle Fabric Interconnect、または Oracle SDN Controller) および Oracle 仮想 I/O のインベントリ作成と管理を行う複数デバイスの管理システムです。Oracle Fabric Manager 製品は、ファブリックデバイスレベル、モジュールレベル、およびサーバーまたは仮想マシンレベルで仮想リソースの構成と管理をサポートするサーバークライアントモデルです。

Oracle Fabric Manager は、リモートサーバー上または Oracle IB スイッチ上で動作するブラウザベースの管理システムです。Oracle Fabric Manager のホストは、Oracle Fabric Manager インタフェースからの構成および管理タスクを変換し、Oracle Fabric Manager が管理するファブリックデバイスにその情報を転送します。

Oracle Fabric Manager は、次のいずれかの方法で実行できます。

- スタンドアロンサーバー上
- Oracle IB スイッチ上

Oracle Fabric Manager の構成および管理機能は、Oracle Fabric Manager をスタンドアロンモードで実行しているかほかの **GUI** 管理システムへのプラグインとして実行している場合でも同じです。

関連情報

- [10 ページの「サポートされるハードウェア」](#)
- [製品のページ](#)

サポートされるハードウェア

このソフトウェアで管理可能なハードウェア製品を次に示します。

サポートされる製品	説明	仕様
Oracle Fabric Interconnect F2-12 スイッチ (仮想化スイッチ)	高パフォーマンスエンタープライズクラウド内に配備されたサーバーおよびストレージシステムのスイッチングインフラストラクチャを統合および仮想化する、完全なアクセススイッチングおよび I/O プラットフォームです。	仮想化スイッチでは、次のものがサポートされています。 ■ EDR 速度をサポートする最大 48 個の 4x IB ポートと 4 個の 12x IB ポート。

サポートされる製品	説明	仕様
		■ ネットワーク機能とゲートウェイ機能を提供する、最大 48 個の 40GbE ポート、24 個の 16Gb FC ポート、および 48 個の 10GBASE-T ポート。 仮想化スイッチでは、ファブリックに接続されているサーバーおよびストレージシステムへの Ethernet 接続を提供する次のモジュールがサポートされています。 ■ Oracle F2 Dual Port 16 Gb Fibre Channel Module ■ Oracle F2 Quad Port 10GBase-T Module ■ Oracle F2 Long Range InfiniBand Module (切り替えモードのみ) ■ Oracle F2 10 Gb および 40 Gb Ethernet Module サポートされているモジュールの詳細は、Oracle F2 I/O モジュールに関するドキュメントを参照してください。
Oracle InfiniBand Switch IS2-46 (リーフスイッチ)	高パフォーマンスエンタープライズクラウド内に配備されたサーバーおよびストレージシステムのスイッチングインフラストラクチャを統合および仮想化する、完全なアクセススイッチングおよび I/O プラットフォームです。	リーフスイッチでは、次のものがサポートされています。 ■ EDR 速度をサポートする最大 38 個の 4x IB ポート。 ■ ネットワーク機能とゲートウェイ機能の両方を提供する、最大 10 個の 10GbE ポートと 24 個の 1GBASE-T ポート。 このスイッチは、冗長性のためペアで配備されるように意図されています。
Fabric Interconnect F1-15	この Fabric Interconnect には、ネットワークモジュールとストレージモジュールの混在をサポートするスロットが 15 個備わっています。	4 ラックユニットの仮想 I/O プラットフォーム - 1 サーバー接続あたり最大 40Gビット/秒の 24 個の IB ポートを通じてホストサーバーのネットワークおよびストレージリソースへの接続性をサポートします。

サポートされる製品	説明	仕様
Fabric Interconnect F1-4	この Fabric Interconnect には、ネットワークとストレージの混在をサポートするスロットが 4 個備わっています。	1 サーバー接続あたり最大 40G ビット/秒の 24 個の IB ポートを通じてホストサーバーのネットワークおよびストレージリソースへの接続性をサポートする、2 ラックユニットの仮想 I/O プラットフォーム。
Oracle SDN Controller	ホストサーバーのネットワークリソースへの接続性をサポートする仮想 I/O プラットフォームです。このコントローラは、既製のサーバーハードウェア上に存在し、ネットワーク I/O 接続の構成と管理を可能にするソフトウェアソリューションを提供します。	

関連情報

- [13 ページの「ソフトウェアのインストールまたはアップグレード」](#)
- [Oracle Fabric Manager 製品のページ](#)
- [Oracle Fabric Interconnect F2-12 製品のページ](#)
- [Oracle Infiniband Switch IS2-46 製品のページ](#)
- [Oracle InfiniBand スイッチ IS2-46 のドキュメント](#)
- [Oracle Fabric Interconnect F2-12 に関するドキュメント](#)
- [Oracle F2 I/O モジュールに関するドキュメント](#)
- [Oracle Fabric Manager に関するドキュメント](#)

ソフトウェアのインストールまたはアップグレード

次のステップでは、Oracle Fabric Manager ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする順序について説明します。

手順	説明	リンク
1.	ハードウェア要件を確認します。	13 ページの「ホストサーバーとクライアントの要件」
2.	必要なポートを開きます。	15 ページの「インストールの準備をする」
3.	ソフトウェアまたはアップグレードをインストールします。	15 ページの「ソフトウェアのインストール」 22 ページの「ソフトウェアのアップグレード」
4.	インストールを確認します。	20 ページの「インストールの確認とトラブルシューティング」
v 6.	証明書を構成します。	27 ページの「Oracle Fabric Manager の証明書の構成」
7.	ソフトウェアにログインします。	34 ページの「ソフトウェアの起動とログイン」
8.	オプション: ソフトウェアをアンインストールします。	25 ページの「ソフトウェアのアンインストール」

関連情報

- [13 ページの「ホストサーバーとクライアントの要件」](#)

ホストサーバーとクライアントの要件

Oracle Fabric Manager は次のいずれかのコンポーネント上で動作します。

- Oracle IB スイッチ ([リーフスイッチ](#)や[仮想化スイッチ](#)など)。

- サポートされている OS または仮想化ソフトウェアが実行されている個別のホストサーバー。
- 仮想マシン。

Oracle Fabric Manager は Oracle Fabric Interconnect または Oracle SDN Controller 自体の上では動作しません。

最初の表は、ホストサーバーの要件を一覧表示したものであり、2 番目の表は、ソフトウェアへのアクセスに使用する任意のクライアントの要件を一覧表示したものです。

表 1 ホストサーバーの要件

コンポーネント	最小要件
サーバー OS	■ Oracle Solaris – 最新バージョンの使用が推奨されますが、サポートされる最小のバージョンは Oracle Solaris 11 です (SPARC および x86)。Oracle Solaris 12 (SPARC および x86) もサポートされます。 ■ Windows – 最新バージョンの使用が推奨されますが、サポートされる最小のバージョンは Windows Server 2012 (64 ビットのみ) です。 ■ Oracle Enterprise Linux – 最新バージョンの使用が推奨されますが、サポートされる最小のバージョンは、Oracle Enterprise Linux 6 Update 5 です。
メモリー	■ 最低限 2G バイト、4G バイト以上 ■ vSphere Client – デュアルコアおよび 4G バイト以上
Java	Java 1.8 (JRE) 以上 – Oracle JRE バージョンのみがサポートされます。OpenJDK JRE など、その他の JRE バージョンはサポートされません。このソフトウェアは Oracle Fabric Manager ソフトウェアに付属していません。使用する OS に対応するバージョンを http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/downloads/index.html からダウンロードします。

表 2 クライアントの要件

コンポーネント	要件
ブラウザ	Mozilla Firefox – 最新バージョンの使用が推奨されますが、サポートされる最小のバージョンは、バージョン 27 です。 Microsoft Internet Explorer – 最新バージョンの使用が推奨されますが、サポートされる最小のバージョンは、バージョン 9.0 です。
ディスプレイ	1280 x 1024 の解像度、16 ビットの中間色モード
JavaScript と Cookie	有効。

関連情報

- [15 ページの「インストールの準備をする」](#)

▼ インストールの準備をする

- **Oracle Fabric Manager** が通信や接続を行えるように、ホスト上の次の関連ポートを開きます。

ポート	説明
8880 または 8443 (HTTPS)	エンドユーザーによって Oracle Fabric Manager への接続に使用されます。 または、これらのポートを閉じたままにしておくこともできますが、RDP セッションを開き、ローカルブラウザを使用してセキュリティを高めてください。
443	Oracle Fabric Interconnect および Oracle SDN Controller の構成に使用されます。
6522	Oracle Fabric Interconnect および Oracle SDN Controller の検出に使用されます。
7443	Oracle IB スイッチの構成に使用されます。
7777	Oracle IB スイッチの検出に使用されます。
22	ログのダウンロード、およびすべての種類のデバイスのバックアップファイルのエクスポートおよびインポートに使用されます。

関連情報

- [15 ページの「ソフトウェアのインストール」](#)

ソフトウェアのインストール

Oracle Fabric Manager は、Oracle IB スイッチ、サポートされている OS または仮想化ソフトウェアが実行されている個別のホストサーバー、または仮想マシン上で実行されます。

関連情報

- [15 ページの「ソフトウェアをインストールする \(Oracle Solaris\)」](#)
- [16 ページの「ソフトウェアをインストールする \(Linux RPM ファイル\)」](#)
- [17 ページの「ソフトウェアをインストールする \(Windows\)」](#)

▼ ソフトウェアをインストールする (Oracle Solaris)

Oracle Fabric Manager をインストールするには、これらのステップに従います。

1. ソフトウェアをインストールするサーバーに **root** としてログインします。

2. **OFM-version_OFM.zip** ファイルを **/root** ディレクトリに抽出します。
/root/OFM ディレクトリにファイルが抽出されます。
3. パッケージをインストールできるようにパブリッシャーを設定します。

```
# pkg set-publisher -p /root/OFM
```
4. ソフトウェアをインストールします。

```
# pkg install OFM
```
5. ユーザー **xsigo** のデフォルト権限を設定して認証を可能にします。

```
# usermod -K defaultpriv=basic,file_dac_read xsigo
```
6. **Oracle Fabric Manager** サービスを起動します。

```
# svcadm enable xms
```
7. パブリッシャーを削除します。

```
# pkg unset-publisher OFM
```
8. (オプション) **/root/OFM** ディレクトリを削除します。

```
# rm -rf /root/OFM
```

この時点で、Oracle Fabric Manager はサーバーにインストールされています。34 ページの「ソフトウェアの起動とログイン」で説明しているように、サポート対象のブラウザを開いて Oracle Fabric Manager にログインできます。

関連情報

- [20 ページの「インストールの確認とトラブルシューティング」](#)

▼ ソフトウェアをインストールする (Linux RPM ファイル)

Oracle Fabric Manager ソフトウェアのインストールでは標準の Linux コマンドが使用されますが、これは、Linux ホスト OS ソフトウェアのインストールや更新の場合と似ています。[RPM](#) から直接、Oracle Fabric Manager をインストールできます。

注記 - このセクションで説明するインストール手順は、新規インストール (Oracle Fabric Manager ホスト上に Oracle Fabric Manager ソフトウェアが存在していない) を想定しています。

1. **Oracle Fabric Manager** をインストールするサーバーにログインします。

2. ソフトウェアを実行するサーバー上で **Oracle Fabric Manager** をインストールします。

xsigo-xms-version_0FM.noarch RPM ファイルをインストールします。例:

```
root@terminus tmp/xms_install]# rpm -ivh xsigo-xms-version_0FM.noarch
Preparing...      ##### [100%]
1:xsigo-xms       ##### [100%]
```

Oracle Fabric Manager サービスは自動的に起動されるので、実行中になっているはずです。ソフトウェアをインストールしたばかりの Linux サーバーを再起動する必要はありません。

3. (オプション) **Oracle Fabric Manager** サービスのステータスをチェックします。

```
root@terminus tmp#service xms status
Checking Oracle Fabric Manager: Running
```

注記 - インストールが正しく完了していないように見える場合は、サービスログファイル内でメッセージの有無を確認します。詳細については、[20 ページの「インストールの確認とトラブルシューティング」](#)を参照してください。

これで Oracle Fabric Manager がサーバーにインストールされました。[34 ページの「ソフトウェアの起動とログイン」](#)で説明しているように、サポート対象のブラウザを開いて Oracle Fabric Manager にログインできます。

関連情報

- [20 ページの「インストールの確認とトラブルシューティング」](#)

▼ ソフトウェアをインストールする (Windows)

Oracle Fabric Manager インストーラでは、Windows サーバーにインストールされた OS のバージョンはチェックされません。作業を開始する前に、使用する Windows のバージョンがサポートされていることを確認してください。[13 ページの「ホストサーバーとクライアントの要件」](#)を参照してください。

注記 - ソフトウェアをデフォルト以外のデバイス (ネットワークドライブや USB ドライブなど) にインストールした場合、xms-backup、techsupport、および director-backups ディレクトリに依存する機能の一部が予想どおりに動作しない可能性があります。

1. **Oracle Fabric Manager** をインストールするサーバーにログインします。
2. ソフトウェアを実行する **Windows** サーバー上で **Oracle Fabric Manager** をインストールします。

このファイルは、Oracle カスタマサポートサイト、または Oracle カスタマサポートのセキュア FTP サイトからダウンロードします。Oracle Fabric Manager インストーラの取得について支援が必要な場合は、Oracle カスタマサポートに連絡してください。

- a. **Windows 用の Oracle Fabric Manager インストーラ (install-xms-win64-version_OFM.exe) を Windows サーバーにダウンロードします。**

このファイルは、Oracle カスタマサポートサイト、または Oracle カスタマサポートのセキュア FTP サイトからダウンロードします。Oracle Fabric Manager インストーラの取得について支援が必要な場合は、Oracle カスタマサポートに連絡してください。

- b. **zip ファイルをダブルクリックして、Oracle Fabric Manager 実行可能ファイルとその関連コンテンツを展開します。**

- c. **Oracle Fabric Manager 実行可能ファイルをダブルクリックしてインストールプログラムを実行します。**

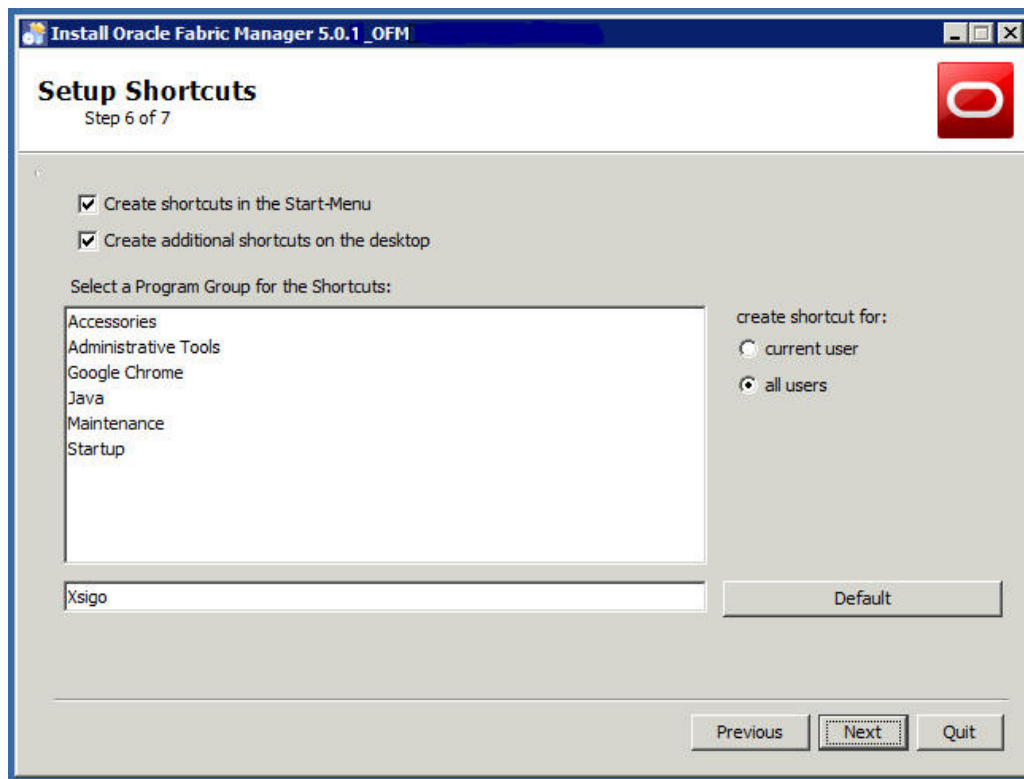
- d. **インストールディレクトリを選択し、「次へ」をクリックします。**

初回インストール時には、インストールディレクトリが作成されることを警告する確認ダイアログが表示されます。インストールディレクトリが Windows Oracle Fabric Manager ホスト上にすでに存在している場合、このダイアログは表示されません。

- e. **「OK」をクリックしてインストールディレクトリを作成し、ソフトウェアをインストールします。**

- f. **ソフトウェアのインストールが完了したら、「次へ」をクリックして「ショートカットの設定」ダイアログを表示します。**

3. チェックボックスを選択してショートカットのインストール方法を決定したあと、「次へ」をクリックします。



インストール終了のダイアログで「完了」をクリックし、インストーラを閉じます。

4. (オプション) Oracle Fabric Manager のステータスを確認します。
[34 ページの「ソフトウェアの起動とログイン」](#)で説明しているように、サポート対象のブラウザを開いて Oracle Fabric Manager にログインします。

関連情報

- [20 ページの「インストールの確認とトラブルシューティング」](#)

インストールの確認とトラブルシューティング

ソフトウェアがインストール済みで実行中の場合、コマンドを実行して必要なサービスが動作していることを確認できます。

関連情報

- [20 ページの「Oracle Fabric Manager サービスのステータスをチェックする」](#)
- [20 ページの「Oracle Fabric Manager サービスを停止する」](#)
- [21 ページの「Oracle Fabric Manager サービスを起動する」](#)
- [22 ページの「サービスログ」](#)

▼ Oracle Fabric Manager サービスのステータスをチェックする

1. 適切なコマンドを使ってホストの Oracle Fabric Manager サービスのステータスを確認します。

- Oracle Solaris では次のように入力します。

```
[root@terminus xms_install]# svcs xms
```

- Linux では次のように入力します。

```
[root@terminus xms_install]# service xms status
```

2. 必要に応じてサービスを停止または起動します。

[20 ページの「Oracle Fabric Manager サービスを停止する」](#) および
[21 ページの「Oracle Fabric Manager サービスを起動する」](#) を参照してください。

関連情報

- [20 ページの「Oracle Fabric Manager サービスを停止する」](#)

▼ Oracle Fabric Manager サービスを停止する

- 適切なコマンドを使ってホストの Oracle Fabric Manager サービスを停止します。

サービスの再起動を試みる際には、まずサービスが正常に終了するまで待ってください。サービスが停止するまで少し時間がかかることがあります。

- **Oracle Solaris** では次のように入力します。

```
root@terminus xms_install]# svcadm disable xms
root@terminus xms_install]# svcs xms
STATE STIME FMRI
disabled 11:18:34 svc:/site/xms:default
```

Oracle Fabric Manager の状態が **disabled** と表示された場合、サービスは停止しています。

- **Linux** では次のように入力します。

```
root@terminus xms_install]# service xms stop
Stopping Oracle Fabric Manager: [ OK ]
```

ステータスが **OK** と表示された場合、サービスは停止しています。

関連情報

- [21 ページの「Oracle Fabric Manager サービスを起動する」](#)

▼ Oracle Fabric Manager サービスを起動する

先に進む前に、Oracle Fabric Manager サービスが停止していることを確認してください。

- 適切なコマンドを使ってホストの **Oracle Fabric Manager** サービスを起動します。

- **Oracle Solaris** では次のように入力します。

```
root@terminus xms_install]# svcadm enable xms
root@terminus xms_install]# svcs xms
STATE STIME FMRI
online 16:18:38 svc:/site/xms:default
#
```

状態が **online** と表示された場合、サービスは起動しています。

- **Linux** では次のように入力します。

```
root@terminus xms_install]# service xms start
Starting Oracle Fabric Manager: [ OK ]
#
```

ステータスが **OK** と表示された場合、サービスは起動しています。

関連情報

- [22 ページの「サービスログ」](#)

サービスログ

Oracle Fabric Manager がオンラインのときにエラーが発生した場合、ログはイベントを受信します。これらのログに含まれる情報は、Oracle テクニカルサポートで役立つことがあります。ログは次の場所にあります。

- Oracle Solaris および Linux – Oracle Fabric Manager のログは /opt/xsigo/xms/logs ディレクトリにあります。ログの内容を表示するには、標準的な UNIX エディタを使用します。
- Windows – Oracle Fabric Manager ログは、ソフトウェアのインストール先ディレクトリにあります。ログの内容を表示するには、標準のテキストエディタを使用します。

Windows サーバー	Linux サーバー	Oracle Solaris サーバー
director-name.log	director-name.log	director-name.log
xmsaudit.log.1	xmsaudit.log.1	xmsaudit.log.1
xms-ha.log.1	xms-ha.log.1	xms-ha.log.1
xmsjobs.log.1	xmsjobs.log.1	xmsjobs.log.1
xms.log.1	xms.log.1	xms.log.1
xms-schedule.log.1	xms-schedule.log.1	xms-schedule.log.1
xms-stderr.log	tomcat.log	tomcat.log
xms-stdout.log	catalina.out	catalina.out
commons-daemon.log		catalina.pid

関連情報

- [22 ページの「ソフトウェアのアップグレード」](#)
- [27 ページの「Oracle Fabric Manager の証明書の構成」](#)

ソフトウェアのアップグレード

Oracle Fabric Manager の最新バージョンは、[My Oracle Support \(https://myoraclesupport.com\)](https://myoraclesupport.com) で入手できます。

関連情報

- [23 ページの「ソフトウェアをアップグレードする \(Oracle Solaris\)」](#)

- [23 ページの「ソフトウェアをアップグレードする \(Windows または Linux\)」](#)

▼ ソフトウェアをアップグレードする (Oracle Solaris)

1. ソフトウェアを更新するサーバーに root としてログインします。
2. `OFM-version_OFM.zip` ファイルを `/root` ディレクトリに抽出します。
`/root/OFM` ディレクトリにファイルが抽出されます。
3. パッケージをインストールできるようにパブリッシャーを設定します。

```
# pkg set-publisher -p /root/OFM
```
4. Oracle Fabric Manager サービスを無効化します。

```
# svcadm disable xms
```
5. ソフトウェアを更新します。

```
# pkg update OFM
```
6. Oracle Fabric Manager サービスを起動します。

```
# svcadm enable xms
```
7. パブリッシャーを削除します。

```
# pkg unset-publisher OFM
```
8. (オプション) `/root/OFM` ディレクトリを削除します。

```
# rm -rf /root/OFM
```

関連情報

- [27 ページの「Oracle Fabric Manager の証明書の構成」](#)

▼ ソフトウェアをアップグレードする (Windows または Linux)

Oracle Fabric Manager ソフトウェアをバージョン 5.0.2 にアップグレードするときは、Oracle JRE 1.8 への更新も必要です。

1. **GUI から Oracle Fabric Manager のバックアップを実行します。**
『Oracle Fabric Manager 5.0.2 管理ガイド』の「バックアップの実行」を参照してください。
2. **XML ファイルを xms-backups ディレクトリからほかの場所 (ネットワークドライブなど) にコピーします。**
3. **Oracle Fabric Manager をシャットダウンします。**
20 ページの「Oracle Fabric Manager サービスを停止する」を参照してください。
4. **Oracle JRE 1.8 にアップグレードします。**
 - a. **JRE を使用しているプログラムを確認するための問い合わせを実行します。**
例:

```
rpm -q -whatrequires jre  
xsigno-xms-4.2.0_OFM-1.noarch
```

Oracle Fabric Manager (および関連するプラグイン) 以外のパッケージで JRE を使用する場合は、続行する前に、JRE のアップグレードがそれらのプログラムに与える影響について考慮してください。
 - b. **使用している OS 用の JRE 1.8 パッケージを次からダウンロードします。**
<http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/downloads/jre8-downloads-2133155.html>
 - c. **以前の JRE パッケージをアンインストールします。次に例を示します。**

```
rpm -e jre-1.6.0_45-fcs.i586 -nodeps
```
 - d. **新しい JRE パッケージをインストールします。次に例を示します。**

```
rpm -i jre-8u60-linux-i586.rpm
```
 - e. **JRE 1.8 がインストールされていることを確認します。**

```
java -version
```
5. **Oracle Fabric Manager を 5.0.2 にアップグレードします。**

注記 - インタフェースの「Oracle Fabric Manager 構成のバックアップ」オプションを使って構成を定期的にバックアップします。

- **Windows の場合、17 ページの「ソフトウェアをインストールする (Windows)」を参照してください。**

- Linux の場合、ソフトウェアをインストールしたディレクトリから次のように入力します。

```
rpm -Uvh xsigo-xms-<version>-1.noarch.rpm
```

このアクションにより、Oracle Fabric Manager ホストがシャットダウンされ、データベースを削除しなくても /opt/xsigo/xms ディレクトリ内のインストールが置き換えられ、サーバーが再起動されます。Oracle Fabric Manager 内のデータ (I/O テンプレートやクラウドなど) はすべて維持されます。

関連情報

- [27 ページの「Oracle Fabric Manager の証明書の構成」](#)

ソフトウェアのアンインストール

Oracle Solaris、Linux、または Windows のソフトウェアを削除する場合と同様に、Oracle Fabric Manager ホストから Oracle Fabric Manager ソフトウェアを削除できます。ソフトウェアの削除が完了すると、Oracle Fabric Manager GUI を使用してサーバーや仮想 I/O の構成や管理を行えなくなります。ただし、引き続き Oracle Fabric OS の CLI を使用してデータセンター内のファブリックを管理できます。

関連情報

- [25 ページの「ソフトウェアをアンインストールする \(Oracle Solaris\)」](#)
- [26 ページの「ソフトウェアをアンインストールする \(Linux\)」](#)
- [26 ページの「ソフトウェアをアンインストールする \(Windows\)」](#)

▼ ソフトウェアをアンインストールする (Oracle Solaris)

Oracle Solaris サーバーから Oracle Fabric Manager を削除するには、`pkg uninstall` コマンドを使用します。

1. Oracle Fabric Manager サービスを無効化します。

```
# svcadm disable xms
```

2. ソフトウェアを削除します。

```
# pkg uninstall OFM
```

関連情報

- [15 ページの「インストールの準備をする」](#)

▼ ソフトウェアをアンインストールする (Linux)

Linux サーバーから Oracle Fabric Manager ソフトウェアを削除するには、`rpm -e` コマンドを使用します。

1. インストールされた **Oracle Fabric Manager** パッケージの名前を確認します。
`rpm -qa | grep xms`
2. **Oracle Fabric Manager** をインストールしたディレクトリから、次のように入力します。

```
[root@terminus xms_install] # rpm -e xsigo-xms-version_OFM.noarch.rpm
```

関連情報

- [15 ページの「インストールの準備をする」](#)

▼ ソフトウェアをアンインストールする (Windows)

現在、Oracle Fabric Manager の Windows インストールプログラムには、アンインストールオプションがありません。

- 次のいずれかの方法を使って **Windows** サーバーからソフトウェアを削除します。
 - サーバーの「スタート」メニューから利用できる **Oracle Fabric Manager** インストールプログラムの **Oracle Fabric Manager** アンインストールオプションを選択します (たとえば、「スタート」→「すべてのプログラム」→「Oracle Fabric Manager」→「アンインストール」)。
 - **Windows Server 2003** の場合、標準的な **Windows** の「プログラムの追加と削除」オプションを使用します (「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」)。
 - **Windows Server 2008** および **2012** の場合、標準的な「プログラムのアンインストール」オプションを使用します (「スタート」→「コントロールパネル」→「プログラムのアンインストール」)。

関連情報

- [15 ページの「インストールの準備をする」](#)

Oracle Fabric Manager の証明書の構成

ユーザー証明書によって、Oracle Fabric Manager ソフトウェアが信頼できるアプリケーションとして識別されます。

関連情報

- [27 ページの「証明書の概要」](#)
- [28 ページの「CA 署名証明書の作成およびインストール」](#)

証明書の概要

Oracle Fabric Manager GUI へのアクセス時にブラウザからホストサーバーに接続すると、ブラウザは、Oracle Fabric Manager ソフトウェアを信頼できるアプリケーションとして識別するための証明書を検索します。証明書が存在しないか、有効でないか、検証不可能である場合、ブラウザは Oracle Fabric Manager アプリケーションを信頼できないとみなします。

ブラウザと Oracle Fabric Manager ホスト間で信頼できるセキュアな接続を確立するには、Oracle Fabric Manager ホストに署名付き証明書をインストールしてください。詳細については、[Oracle Fabric Manager 5.0.2 セキュリティーガイド](#)を参照してください。証明書の署名には、Verisign、Digi-Sign、Thawte など、一般的な認証局 (CA) エンティティーを利用できます。Oracle Fabric Manager 用の証明書を構成するには、証明書署名リクエストの送信と、署名証明書のインストールが必要になります。手順については、[28 ページの「CA 署名証明書の作成およびインストール」](#)を参照してください。

CA 証明書をインストールしないことにした場合、Oracle Fabric Manager は自己署名付き証明書を備えているので、CA によって署名された証明書がなくても使用できます。証明書のエラーが発生した場合でも、Oracle Fabric Manager にログインしてアプリケーションを使用できます。

関連情報

- [28 ページの「CA 署名証明書の作成およびインストール」](#)

CA 署名証明書の作成およびインストール

証明書をインストールおよび作成するには、Oracle Fabric Manager ホストから [CSR](#) を作成し、[CA](#) に送信する必要があります。このリクエストは、Oracle Fabric Manager ホストに固有の公開鍵とその他の情報から構成されます。CA からの応答として、署名付き証明書が提供されます。この証明書を、CSR の生成元となった特定の Oracle Fabric Manager ホストにインポートします。

注記 - Oracle Fabric Manager ホスト上で実行されている管理コンソール経由で Oracle Fabric Manager セキュリティー証明書を構成します。コマンドの実行に使用できる管理コンソールがあることを確認してください。

関連情報

- [28 ページの「証明書の作成およびインストール \(Linux または Solaris\)」](#)
- [31 ページの「証明書の作成およびインストール \(Windows\)」](#)

証明書の作成およびインストール (Linux または Solaris)

次のトピックでは、CSR 証明書を作成する方法と Linux または Solaris 用の CA 証明書をインストールする方法について説明します。

関連情報

- [28 ページの「CSR を作成して送信する \(Linux または Oracle Solaris\)」](#)
- [29 ページの「CA 証明書をインストールする \(Linux または Oracle Solaris\)」](#)

▼ CSR を作成して送信する (Linux または Oracle Solaris)

各 Oracle Fabric Manager ホストの [CSR](#) を作成するには、サーバーの公開鍵を生成したあと、その鍵を CSR に埋め込みます。公開鍵は各 Oracle Fabric Manager ホストに一意に関連付けられており、別のサーバーに移動したり別のサーバーで使用したりすることはできません。

1. **xms_cacerts** ファイルを削除することで、既存の証明書を削除します。

```
rm /opt/xsigo/xms/conf/xms_cacerts
```

2. **keytool** ユーティリティーを使用して Oracle Fabric Manager ホスト用の証明書を生成します。

keytool ユーティリティーは Java 1.8 (Oracle JRE) パッケージに含まれており、標準的な任意のサーバー OS 上で動作します。詳細については、<https://docs.oracle.com/javase/8/docs/technotes/tools/unix/keytool.html> を参照してください。

```
keytool -genkeypair -alias xms -keyalg RSA -keystore /opt/xsigo/xms/conf/xms_cacerts -keysize 2048
```

3. CSR を作成します。

```
keytool -certreq -keyalg RSA -alias xms -file /opt/xsigo/xms/conf/certreq.csr -keystore /opt/xsigo/xms/conf/xms_cacerts
```

4. CSR を編集し、正しい情報が含まれていることを確認します。

CSR が正しくない場合は、正しい情報を入力します。

```
vi /opt/xsigo/xms/conf/certreq.csr
```

5. CSR を CA (VeriSign など) に提出します。

CSR を送信し、CA からの電子メールを受信したら、[29 ページの「CA 証明書をインストールする \(Linux または Oracle Solaris\)」](#)に進みます。

関連情報

- [29 ページの「CA 証明書をインストールする \(Linux または Oracle Solaris\)」](#)

▼ CA 証明書をインストールする (Linux または Oracle Solaris)

CA からの電子メールを受信したら、この手順に従って証明書を Oracle Fabric Manager ホストにインポートします。

注記 - 証明書は寿命があり、更新しない場合は期限切れになります。証明書をインストールし、証明書エラーが発生することなく Oracle Fabric Manager が実行していたときに、突然、証明書エラーページが再度表示されるようになった場合は、証明書の有効期限を確認してください。

1. CA からの電子メールの指示をすべて実行することで、中間証明書を Oracle Fabric Manager ホストにインポートします。
2. Oracle Fabric Manager ホストで、keytool ユーティリティーを使用してプライマリおよびセカンダリ中間証明書ファイルを作成します。

a. プライマリ中間ファイルの場合:

```
keytool -import -trustcacerts -alias primaryintermediate -keystore /opt/xsigo/xms/conf/xms_cacerts  
-file /opt/xsigo/xms/conf/primary_inter.cer
```

b. セカンダリ中間ファイルの場合:

```
keytool -import -trustcacerts -alias secondaryintermediate -keystore /opt/xsigo/xms/conf/xms_cacerts  
-file /opt/xsigo/xms/conf/secondary_inter.cer
```

3. 作成したばかりの中間ライセンスに対して SSL 証明書ファイルを作成します。

```
keytool -import -trustcacerts -alias xms -keystore /opt/xsigo/xms/conf/xms_cacerts -file /opt/xsigo/xms/conf/  
ssl_cert.cer
```

4. xms_cacerts ディレクトリの内容を .txt ファイルとして確認します。

プロンプトが表示されたら、キーストアのパスワードを入力します。キーストアは、すべての公開鍵と署名付き証明書を含む、Oracle Fabric Manager ホスト上のデータベースです。署名付き証明書のインストール時にキーストアのパスワードを再度入力する必要があります。

```
keytool -list -v -keystore /opt/xsigo/xms/conf/xms_cacerts  
Enter keystore password: enter your keystore password
```

5. xms/conf ディレクトリにある server.xml ファイルに、標準的な UNIX エディタを使って次の行を追加します。

```
keystoreFile="conf/xms_cacerts"  
keystorePass=keystore-password
```

6. Oracle Fabric Manager サービスを再起動します。

■ **Linux サーバーでは次のように入力します。**

```
service xms stop  
service xms start
```

■ **Oracle Solaris サーバーでは次のように入力します。**

```
svcadm disable xms  
svcadm enable xms
```

7. CA から受信した電子メールを参照し、証明書をブラウザにインポートするための手順に従います。

8. 証明書が正しくインポートされたら、ブラウザを起動してセキュリティーオプションをチェックし、証明書がインストールされたことを確認します。

9. 証明書を調べ、指定した情報が正しいことを確認します。

例:

■ **Firefox ブラウザでは次のメニューパスに従います。**

「ツール」->「オプション」->「詳細」タブ->「証明書を表示」

■ **Internet Explorer ブラウザでは次のメニューパスに従います。**

「ツール」->「インターネットオプション」->「コンテンツ」タブ->「証明書」

10. Oracle Fabric Manager にログインします。

証明書が正しくインストールされていれば、証明書エラーページはもう表示され不会再です。Oracle Fabric Manager を実行している以前のブラウザセッションがあった場合は、証明書のインストール後、ブラウザを完全に閉じてから Oracle Fabric Manager にふたたびログインしてください。このアクションによって、ブラウザのキャッシュがクリアされます。

関連情報

- [34 ページの「ソフトウェアの起動とログイン」](#)

証明書の作成およびインストール (Windows)

次のトピックでは、CSR 証明書を作成する方法と Windows 用の CA 証明書をインストールする方法について説明します。

関連情報

- [31 ページの「CSR を作成して送信する \(Windows\)」](#)
- [32 ページの「CA 証明書をインストールする \(Windows\)」](#)

関連情報

- [34 ページの「ソフトウェアの起動とログイン」](#)

▼ CSR を作成して送信する (Windows)

各 Oracle Fabric Manager ホストの証明書署名リクエスト (CSR) を作成するには、サーバーの公開鍵を生成したあと、その鍵を CSR に埋め込みます。公開鍵は各 Oracle Fabric Manager ホストに一意に関連付けられており、別のサーバーに移動したり別のサーバーで使用したりすることはできません。

1. **xms_cacerts** ファイルを削除することで、既存の証明書を削除します。

```
"C:\Program Files\xms\conf\xms_cacerts"
```

2. **keytool** ユーティリティーを使用して Oracle Fabric Manager ホスト用の証明書を生成します。

keytool ユーティリティーは Java 1.8 (JRE) パッケージに含まれており、標準的な任意のサーバー OS 上で動作します。詳細については、<https://docs.oracle.com/javase/8/docs/technotes/tools/unix/keytool.html> を参照してください。

```
"C:\Program Files\Java\jre8\bin\keytool.exe" -genkeypair -alias xms -keyalg RSA -keystore "C:\Program Files\xms\conf\xms_cacerts" -keysize 2048
```

3. CSR を作成します。

```
"C:\Program Files\Java\jre8\bin\keytool.exe" -certreq -keyalg RSA -alias xms -file "C:\Program Files\xms\conf\certreq.csr" -keystore "C:\Program Files\xms\conf\xms_cacerts"
```

4. CSR を編集し、正しい情報が含まれていることを確認します。

CSR が正しくない場合は、正しい情報を入力します。

```
notepad "C:\Program Files\xms\conf\certreq.csr"
```

5. CSR を CA (VeriSign など) に提出します。

CA からの電子メールを受信したら、[32 ページの「CA 証明書をインストールする \(Windows\)」](#)に進みます。

関連情報

- [32 ページの「CA 証明書をインストールする \(Windows\)」](#)

▼ CA 証明書をインストールする (Windows)

CA からの電子メールを受信したら、この手順に従って証明書を Oracle Fabric Manager サーバーにインポートします。

注記 - 証明書は寿命があり、更新しない場合は期限切れになります。証明書をインストールし、証明書エラーが発生することなく Oracle Fabric Manager が実行していたときに、突然「証明書エラー」ページが再度表示されるようになった場合は、証明書の有効期限を確認してください。

1. CA からの電子メールの指示をすべて実行することで、中間証明書を Oracle Fabric Manager ホストにインポートします。
2. Oracle Fabric Manager ホストで、keytool ユーティリティーを使用してプライマリおよびセカンダリ中間証明書ファイルを作成します。

a. プライマリ中間ファイルの場合:

```
"C:\Program Files\Java\jre8\bin\keytool.exe" -import -trustcacerts -alias primaryintermediate -keystore "C:\Program Files\xms\conf\xms_cacerts" -file "C:\Program Files\xms\conf\primary_inter.cer"
```

b. セカンダリ中間ファイルの場合:

```
"C:\Program Files\Java\jre8\bin\keytool.exe" -import -trustcacerts -alias secondaryintermediate
```

```
-keystore "C:\Program Files\xms\conf\xms_cacerts" -file "C:\Program Files\xms\conf\secondary_inter.cer"
```

3. 作成したばかりの中間ライセンスに対して SSL 証明書ファイルを作成します。

```
"C:\Program Files\Java\jre8\bin\keytool.exe" -import -trustcacerts -alias xms -keystore "C:\Program Files\xms\conf\xms_cacerts" -file "C:\Program Files\xms\conf\ssl_cert.cer"
```

4. xms_cacerts キーストアの内容を確認します。

プロンプトが表示されたら、キーストアのパスワードを入力します。キーストアは、すべての公開鍵と署名付き証明書を含む、Oracle Fabric Manager ホスト上のデータベースです。署名付き証明書のインストール時にキーストアのパスワードを再度入力する必要があります。

```
"C:\Program Files\Java\jre8\bin\keytool.exe" -list -v -keystore "C:\Program Files\xms\conf\xms_cacerts"
Enter keystore password: enter your keystore password
```

5. server.xml ファイルに次の行を追加します。

```
keystoreFile="conf/xms_cacerts"
```

```
keystorePass=キーストアのパスワードを入力します
```

6. Windows サーバーの「サービス」タブで、Oracle Fabric Manager サービスを選択して再起動します。

サービスの再起動に利用可能などの方法でも使用できます。

7. CA から受信した電子メールを参照し、証明書をブラウザにインポートするための手順に従います。

8. 証明書が正しくインポートされたら、ブラウザを起動してセキュリティーオプションをチェックし、証明書がインストールされたことを確認します。

9. 証明書を調べ、指定した情報が正しいことを確認します。

例:

■ Firefox ブラウザでは次のメニューパスに従います。

「ツール」->「オプション...」->「詳細」タブ->「証明書を表示」

■ Internet Explorer ブラウザでは次のメニューパスに従います。

「ツール」->「インターネットオプション」->「コンテンツ」タブ->「証明書」

10. Oracle Fabric Manager にログインします。

証明書が正しくインストールされていれば、証明書エラーページはもう表示されneいはずです。Oracle Fabric Manager を実行している以前のブラウザセッションがあった場合は、証明書のインストール後、ブラウザを完全に閉じてから Oracle Fabric Manager にふたたびログインしてください。このようにすれば、ブラウザキャッシュがフラッシュされます。

関連情報

- [34 ページの「ソフトウェアの起動とログイン」](#)

ソフトウェアの起動とログイン

Oracle Fabric Manager への初回アクセス時には、デフォルトのユーザー名とパスワードを使用します。

関連情報

- [34 ページの「初回ログインに必要な資格」](#)
- [35 ページの「認証」](#)
- [36 ページの「Oracle Fabric Manager にログインする」](#)

初回ログインに必要な資格

デフォルトのユーザー名およびパスワードは、Oracle Solaris、Linux、または Windows Oracle Fabric Manager ホストの Oracle Fabric Manager で異なっています。

- Oracle Solaris の場合、デフォルトのユーザー名とパスワードは、Oracle Solaris サーバーのデフォルトのユーザーアカウント (root) と同じです。追加のユーザーアカウントを構成してもかまいませんが、それらは非 root ユーザーアカウントとして構成する必要があります。
- Linux の場合、デフォルトのユーザー名とパスワードは、Linux サーバーのデフォルトのユーザーアカウント (root) と同じです。追加のユーザーアカウントを構成してもかまいませんが、それらは非 root ユーザーアカウントとして構成する必要があります。
- Windows の場合、デフォルトのユーザー名とパスワードは、Windows サーバーのデフォルトの管理者アカウント (administrator) と同じです。追加のユーザーアカウントを構成してもかまいませんが、それらは非管理者ユーザーアカウントとして構成する必要があります。

注記 - インストールによっては administrator または root によるサーバーへのアクセスが許可されないの、Oracle では、Oracle Fabric Manager ホストへのログインに使用できる ofmadmin アカウントも用意されています。

Oracle Fabric Manager への初回アクセス時には、デフォルトのユーザー名とパスワードを使用します。プラグインなどの追加機能をインストールするには、これらのアカウント (root、administrator、または ofmadmin) のいずれかが必要です。Oracle Fabric

Manager にログインしたあと、(root、administrator、または ofmadmin アカウントを使用し続ける代わりに) 専用のユーザーアカウントを作成します。

Oracle Fabric Manager への初回ログイン後は、特定の権限を持つ追加のユーザーアカウントを作成します。『[Oracle Fabric Manager 5.0.2 管理ガイド](#)』の「[ユーザーの管理](#)」を参照してください。root 以外の追加ユーザーアカウントを作成するときには、これらのユーザーアカウントがベースとなる OS にも存在する (Oracle Solaris、Linux、または Windows のいずれかのユーザーアカウント) 必要があることに注意してください。ベースとなるユーザーアカウントがサーバーの OS レベルに存在していない場合や、ユーザー名の間に違いがある場合には、Oracle Fabric Manager にログインできません。

関連情報

- [35 ページの「認証」](#)
- [36 ページの「Oracle Fabric Manager にログインする」](#)

認証

このソフトウェアは独自で認証を行いません。代わりにログイン画面を表示し、ユーザー名とパスワードの文字列をベースとなる Oracle Solaris、Linux、または Windows OS に渡し、これらの OS に認証を処理させます。Oracle Fabric Manager のログインはパススルー方式なので、[LDAP](#) や [AD](#) などの追加の認証方法がサポートされています。認証オプションの詳細については、『[Oracle Fabric Manager 5.0.2 管理ガイド](#)』の「[ユーザーの管理](#)」を参照してください。

OS およびほかのすべての認証方法が完了すると、その情報が Oracle Fabric Manager に送信されます。ここで続いて、認証されたユーザーに対して正しい Oracle Fabric Manager レベルの特権が設定されます。これらの特権が適用されると、この特権によって、認証されたユーザーが使用できる Oracle Fabric Manager GUI 内のオブジェクトが決まります。それぞれのレベルで、ユーザー名には異なる権利または特権を与えることができますが、Oracle Fabric Manager の場合、ユーザーに与えられた Oracle Fabric Manager の特権のみが強制されます。

たとえば、OS レベルのユーザー joey がすべての権利を持つスーパーユーザーであっても、Oracle Fabric Manager レベルのユーザー joey がネットワーク管理者ユーザーである場合は、ネットワーク管理者[役割](#)の特権のみが適用され、スーパーユーザーの特権は適用されません。この場合、ユーザー joey は異なる権限を持ちますが、Oracle Fabric Manager 経由でファブリックデバイスや仮想 I/O を管理する際には Oracle Fabric Manager 権限のみが適用されます。

関連情報

- [36 ページの「Oracle Fabric Manager にログインする」](#)

▼ Oracle Fabric Manager にログインする

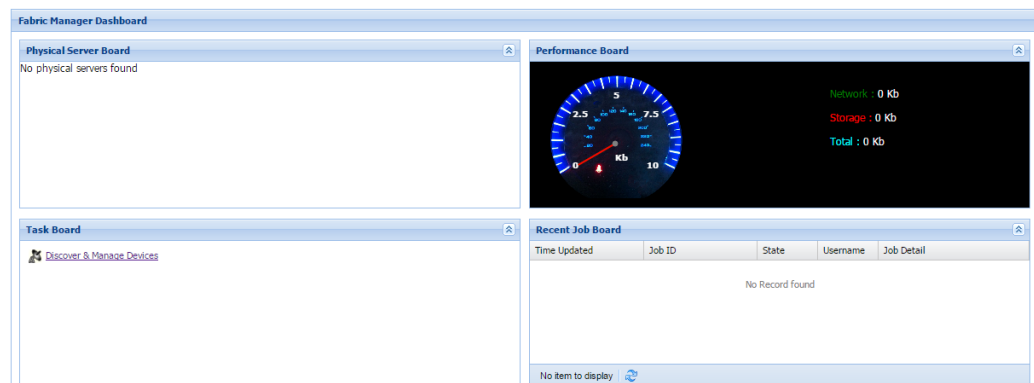
ログインすると、ソフトウェアからアクティブに構成または管理を行なっているかぎり、管理セッションはアクティブのまま維持されます。ただし、このソフトウェアには 30 分の管理セッション非アクティブタイマーがあります。このため、Oracle Fabric Manager 内で 30 分間クリックアクションを実行しないとログアウトされるため、再度ログインする必要が生じます。

1. **`https://server-name:8443/xms` にアクセスします。ここで、`server-name` は **Oracle Fabric Manager** ホストの IP アドレスまたはホスト名であり、それにポート 8443 を付加します。**

例:

`https://gorilla:8443/xms`

2. 有効なユーザー名とパスワードを入力し、インターフェースの言語を選択します。
3. 「ログイン」をクリックして開始ページを表示します。



4. ナビゲーションパネルから「管理対象デバイス」->「デバイスの検出」を選択し、1 つ以上の **Oracle InfiniBand スイッチ**、**Oracle Fabric Interconnect**、または **Oracle SDN Controller** を検出または管理します。

関連情報

- [Oracle Fabric Manager 5.0.2 管理ガイド](#)

用語集

A

AD Active Directory は Microsoft による LDAP ディレクトリサービスの実装であり、主に Windows 環境で使用されます。その主な目的は、Windows ベースのコンピュータ向けに、集中管理された認証/承認サービスを提供することです。管理者は Active Directory を使用することで、組織に対するポリシーの割り当て、ソフトウェアの配備、および重要な更新の適用も行えます。

C

CA 認証局。証明書は、Verisign、Digi-Sign、Thawte など、一般的な任意の CA エンティティーを通じて署名できます。

CSR Certificate Signature Request (証明書署名リクエスト)。このリクエストは、Oracle Fabric Manager ホストに固有の公開鍵とその他の情報から構成されます。

E

EDR Enhanced Data Rate (拡張データレート)。

G

ゲートウェイ ゲートウェイは、IB ファブリックとデータセンター LAN を接続します。Ethernet ゲートウェイは、ネットワークインタフェースカード (NIC) のコレクションを Ethernet LAN に提供します。

G バイト GigaByte (ギガバイト) の短縮形。1G バイトは約 1000M バイトです。

G ビット/秒 「1 秒あたりのギガビット数」の短縮形。Ethernet テクノロジーのスループットの単位。

GbE 「ギガビット Ethernet」の短縮形。Ethernet テクノロジーのスループットの単位。

GUI Oracle Fabric Manager 5.0.0 の Graphical User Interface (グラフィカルユーザーインターフェース)。

I

IB InfiniBand。非常に高いパフォーマンスのコンピューティングで使用する、高帯域幅のメッセージングテクノロジー。

L

リーフスイッチ Oracle InfiniBand Switch IS2-46 スイッチ。

LDAP Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) は、TCP/IP 経由で動作するディレクトリサービスに対してクエリーや変更を行うためのアプリケーションプロトコルです。クライアントは、LDAP サーバーに接続することで LDAP セッションを開始します (デフォルトでは TCP ポート 389 を使用)。続いて、クライアントからサーバーに操作リクエストが送信され、サーバーから応答が送信されます。

M

モジュール ユーザーが交換できるシャーシのコンポーネント。通常は外部からアクセスできます。

R

役割 ユーザーに割り当て可能な固定された 5 つの権限レベル (Operators、Administrators、Storage など) の 1 つ。

RPM RPM (Redhat Package Manager)。

U

ユーザー 人を内部的または外部的に表現したもの。ユーザーは、ローカルに存在しているか、LDAP 経由で存在しています。デフォルトでは、admin ユーザーはローカルに作成されます。

V

仮想化スイッチ Oracle Fabric Interconnect F2-12 スイッチ。この仮想化スイッチでは、FC および Ethernet 接続を提供する複数の I/O モジュールをサポートしています。

索引

あ

- アップグレード
 - Oracle Solaris, 23
 - Windows または Linux, 23
- アンインストール, 25
 - Linux サーバー, 26
 - Oracle Solaris, 25
 - Windows サーバー, 26
- インストール
 - Linux サーバー上, 16
 - Oracle Solaris, 15
 - Windows サーバーへの, 17
 - 検証, 20
 - サービスログ, 22
 - 準備, 15
 - トラブルシューティング, 20

か

- 仮想化スイッチ
 - サポートされているモジュール, 11
 - 説明, 10, 13
- クライアントの要件, 14

さ

- サーバーの要件, 14
- サービスログ, 22
- サポートされるハードウェア, 10
- 証明書
 - Linux または Oracle Solaris にインストール, 29
 - Windows でのインストール, 32
 - 概要, 27
 - 自己署名, 27
- 証明書署名リクエスト 参照 CSR
- 製品ドキュメント, 7

- セキュリティー証明書エラー, 27

た

- デフォルトのパスワード, 35

な

- 認証, 35
 - AD, 35
 - LDAP, 35
- 認証局 参照 CA

は

- ハードウェア, サポートされる, 10
- ポート, 15
- ホストサーバーの要件, 14

ま

- モジュール 参照 I/O モジュール

ら

- リーフスイッチ
 - 説明, 11, 13
- ログイン, 36
- ログイン、初期の資格証明, 35

C

- CA, 27
- CSR

Linux または Oracle Solaris での作成, 28
Windows での作成, 31

アンインストール, 26
ソフトウェアのアップグレード, 23
ソフトウェアのインストール, 17

F

Fabric Interconnect F1-15, 11
Fabric Interconnect F1-4, 12

I

I/O モジュール
サポートされているモジュールのリスト, 11

K

keytool ユーティティ, 31
keytool ユーティリティー, 28

L

LDAP 認証, 35
Linux サーバー
ソフトウェアのアップグレード, 23
ソフトウェアのアンインストール, 26
ソフトウェアのインストール, 16

O

Oracle Fabric Interconnect F2-12 スイッチ, 10
Oracle Fabric Manager
インストールの概要, 9
起動, 21
ステータスのチェック, 20
停止, 20
Oracle InfiniBand Switch IS2-46, 11
Oracle SDN Controller, 12
Oracle Solaris サーバー
ソフトウェアのアップグレード, 23
ソフトウェアのアンインストール, 25
ソフトウェアのインストール, 15

W

Windows サーバー